

IOS および ClickOS AP における CAPWAP 情報のリセット

内容

[はじめに](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[表記法](#)

[AP の手動設定](#)

[APでのLightweight設定のリセット](#)

[AireOSまたはCatalyst WLCによるAPのリセット](#)

[CLIによるAPのリセット](#)

[リセットボタンによるAPのリセット](#)

[コントローラに登録された AP でリセット ボタンをディセーブルにする方法](#)

[トラブルシューティング](#)

はじめに

このドキュメントでは、Cisco IOS®およびClickOSアクセスポイント(AP)のスタティック設定情報を手動で設定またはリセットする方法について説明します。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CAPWAP AP と Cisco ワイヤレス LAN コントローラ (WLC) の設定に関する基礎知識
- Control and Provisioning of Wireless Access Points Protocol に関する基礎知識

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づいています。

- ファームウェアリリース 8.8.111.0 が稼働している Cisco 5520 WLC
- Cisco AIR-CAP3702I-E-K9 シリーズ AP
- Cisco AIR-AP4800-E-K9 シリーズ AP
- ファームウェアリリース17.6.3が稼働しているCisco 9800-CL

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されました。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな（デフォルト）設定で作業を開始しています。本稼働中のネットワークでは、各コマンドによって起こる可能性がある影響を十分確認してください。

表記法

表記法の詳細については、『[シスコテクニカルティップスの表記法](#)』を参照してください。

AP の手動設定

新規インストールでは、APがディスカバリアルゴリズムによってWLCを検出できない場合、コンソールポートおよびAPコマンドラインインターフェイス(CLI)を使用して、コントローラに加入するために必要な情報を静的に設定できます。WLCの検出アルゴリズムとLightweightアクセスポイント(LAP)の登録プロセスの詳細については、[ワイヤレスLANコントローラ\(WLC\)へのLightweight AP\(LAP\)の登録を参照してください](#)。

AP CLIインターフェイスを使用してAPにスタティック情報を手動で設定するには、次のEXECモードCLIコマンドを使用できます。

- Cisco IOSベースのAP用：

```
<#root>
```

```
AP#
```

```
capwap ap ip address <IP address> <subnet mask>
```

```
AP#
```

```
capwap ap ip default-gateway <IP-address>
```

```
AP#
```

```
capwap ap primary-base <WLC-sysname> <IP-address>
```

```
AP#
```

```
capwap ap secondary-base <WLC-sysname> <IP-address>
```

```
(optional)
```

```
AP#capwap
```

```
ap hostname <name>
```

```
(optional)
```

- ClickOSベースのAPの場合

```
<#root>
```

AP#

```
capwap ap ip <IP-address> <subnet mask> <default-gateway> [<dns1-ip-address> <dns2-ip-address> <domain>]
```

AP#

```
capwap ap primary-base <WLC-sys-name> <IP-address>
```

AP#

```
capwap ap hostname <name>
```

(optional)

注：これらのコマンドはイネーブルモードで発行する必要があります。デフォルトのイネーブルパスワードは Cisco です。CLIコマンドで設定されたスタティック情報は、APがコントローラに加入するために使用されます。APがコントローラに加入した後、ユーザはコントローラを介してLAP上で新しい設定を行うことができます。

APでのLightweight設定のリセット

ネットワーク内の別の場所にAPを移動するとAPが以前のWLCに加入できない場合、または、別のWLCに加入するためにAPを手動で再設定する場合、APが別のコントローラに関連付けられるようにするには、新しいコントローラ情報を入力する必要があります。

AireOSまたはCatalyst WLCによるAPのリセット

以前の方式に加えて、WLCからもLAPの設定をリセットできます。LAPがコントローラに登録されると、LAP上の設定をリセットするために、コントローラから下記のコマンドを使用できます。

- APスタティックIP設定を除き、すべてのAP設定をデフォルトに戻すには、`clear ap config <ap-name> keep-ip-config`コマンドを使用します。
- APスタティックIP設定を含む、すべてのAP設定をデフォルトに戻すには、`clear ap config <ap-name>` コマンドを使用します。

CLIによるAPのリセット

この方式を使用するには、特権EXECモードでAPコンソールモードにログインします。

- Cisco IOSベースのAP用：

AP#clear capwap ap ?

all-config <-- if you need to reset AP to factory default (this command causes system)

controller <-- if you need to clear static configuration for WLC IP address (this command may cause termination session to WLC and new DTLS handshake)

dot1x <-- if you need to reset dot1x credentials for AP authentication

hostname <-- if you need to reset AP host name config

ip <-- if you need to remove static IP configuration on AP. (this command may cause termination session to WLC and new DTLS handshake)

- ClickOSベースのAPの場合

AP#capwap ap erase ?

all <-- Erase all AP config (this commands causes AP to reboot)

static-ip <-- Erase static IP/DNS config (this command causes termination session to WLC and new DTLS handshake)

リセットボタンによるAPのリセット

この方法を使用するには、APに物理的にアクセスできる必要があります。このプロセスは、Cisco IOS APでもClickOS APでも同じです。

- AP から電源の接続を解除します。
- APのModeボタンを押し続けて、APに電源を供給します。
- modeボタンを20秒以上押し続けます。
- Cisco IOSベースのAPの場合 :

IOS Bootloader - Starting system.

flash is writable

Tide XL MB - 40MB of flash

...

button pressed for 22 seconds

- ClickOSベースのAP:

AP#Button is pressed. Configuration reset activated..

Keep the button pressed for > 20 seconds for full reset

Wait for the button to be released

Button pressed for 22 seconds

コントローラに登録された AP でリセット ボタンをディセーブルにする方法

コントローラに登録された AP でリセット ボタンをディセーブルにするには、次の CLI コマンドを使用します。

<#root>

(Cisco Controller) >

```
config ap rst-button disable <AP NAME>
```

トラブルシューティング

IPアドレスの割り当てに関連する問題のトラブルシューティングを行うには、コンソールポートが備わったLAPで次のdebugコマンドを使用できます。

- Cisco IOSベースのAPの場合：

- debug ip udp

- ClickOSベースのAP:

- debug dhcp events

- debug dhcp errors
- debug dhcp packets



注：APにコンソールポートがない場合、LAPに接続されているポートの有線スニファトレースを取得して、どのパケットがLAPで受信され、LAPに送信されたかを確認する必要があります。

次のdebugコマンドを使用して、WLC CLIでディスカバリプロセスを監視できます。

- Cisco IOSおよびClickOSベースのAP上：
 - **debug capwap client events**
 - debug capwap client errors

- debug capwap client detail

翻訳について

シスコは世界中のユーザにそれぞれの言語でサポート コンテンツを提供するために、機械と人による翻訳を組み合わせて、本ドキュメントを翻訳しています。ただし、最高度の機械翻訳であっても、専門家による翻訳のような正確性は確保されません。シスコは、これら翻訳の正確性について法的責任を負いません。原典である英語版（リンクからアクセス可能）もあわせて参照することを推奨します。